

(様式1)

# 教育研究業績書

2026年5月1日

氏名 坂田 徳生

研究分野	学位	
小児看護学	医療福祉修士 国際医療福祉大学大学院	
研究内容のキーワード		
プレパレーション、処置後の遊び		
教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1. 教育方法の実践	2015年4月～2019年3月	松蔭大学では、助教として、初年度のリメディアル授業「死生観」のグループのサポート、小児看護学において、小児看護学発達援助論の講義および演習の一部、小児看護学実習、基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ、統合実習（小児看護）を担当。コミュニケーション文化楽部保育士養成課程で、子どもの病気と事故に関する演習授業を担当。
	2019年4月～2020年8月	神奈川工科大学では、助教として小児看護学活動論Ⅱでの講義および演習の一部、小児看護学実習、基礎看護学実習Ⅰ、統合実習（小児看護）、看護研究Ⅱを担当。
	2022年4月～2023年8月	群馬医療福祉大学の講師として、小児看護学概論、小児看護援助論Ⅰ・Ⅱ、看護研究を担当。
	2023年4月～2024年3月	西武文理大学講師として、小児看護支援論の一部、小児看護学実習、療養実習、総合実習（小児看護）、基礎ゼミナール、看護とホスピタリティⅠ隣地学習、卒業研究を担当。
	2024年4月～	西武文理大学講師として継続、新カリキュラムに伴った小児看護支援論Ⅰ・Ⅱの一部、小児看護学実習、総合実習（小児看護学）、基礎ゼミナール、看護とホスピタリティⅠの一部および隣地学習、看護総合演習の一部、卒業研究を担当。また共通科目の災害と地域づくりの一部を担当した。
2. 作成した教科書、教材 1) 演習ノートの作成	2017年9月～2018年2月	松蔭大学での小児看護発達援助論の授業において、援助が実習で活用できるよう、学生が記入する様式の演習ノートを作成した。
	2022年4月～2023年8月	群馬医療福祉大学で新型コロナウイルス蔓延防止期間において学内演習のため、気管支喘息の事例を作成、幼稚園実習の実習記録用紙を作成した。
3. 教育上の能力に関する大学等の評価	2022年4月～2023年8月	群馬医療福祉大学FD・SD委員会による授業評価アンケートでは、すべての項目で3.5以上であり、概ねよい評価であった。
	2023年4月～	西武文理大学において単独で担当した基礎ゼミナールと卒業研究での授業評価アンケートでは、平均が4.0以上であり概ねよい評価であった。
4. 実務の経験を有する者についての特記事項		特記なし

5. その他		特記なし
職務上の実績に関する事項		
事 項	年 月 日	概 要
1. 資格、免許等 看護師免許	1999年3月	
2. 所属学会 日本看護協会・神奈川県看護協会再入会 （現在に至る） 日本小児看護学会入会（現在に至る） 日本小児保健協会（現在に至る）	2013年4月 2013年8月 2016年8月	
3. 実務の経験を有する者についての特記事項		特記なし
4. その他		特記なし

(様式2)

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は発 表年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概 要
(著書) 該当なし				
(学術論文) 1. カンボジアにおける小児期 WHO推奨ワクチンに関する意識 調査(修士論文)	単著	2013年3月	国際医療福祉大学 大学院	途上国での小児用ワクチンの普及と接種率向上を究極の目的とし、カンボジアで小児医療に関わる5歳未満の子どもを持つ職員と一般の保護者へ小児期WHO推奨ワクチンの認知度や必要性について意識調査を行った。その結果から、途上国への国際医療協力におけるワクチンの普及および接種率を向上させる方法を検討した。
2. カンボジアにおける小児期 WHO推奨ワクチンに関する意識 調査：5歳未満の子どもを持 つ親を対象とした現地調査 (査読付き)	単著	2015年7月	日本小児看護学会誌	修士論文を査読付きの学会誌に投稿した。
3. 松蔭大学看護学部の初年次 教育の実践報告-1期生への取 り組み- (査読付き)	共著	2016年3月	松蔭大学看護学部紀要	松蔭大学看護学部に2015年度入学した学生73名を対象に行った初年次教育のコンセプトと実践内容を提示し、入学前教育とスタディスキル教育の結果を報告した。
4. 新設看護学部における課程 外での初年次教育の成果：学 生への調査から (査読付き)	共著	2016年12月	日本看護学会論文集・看 護教育	新設看護学部で、課程外教育で行われたスタディスキル教育の成果において、学生が学んでいると教員が感じた内容について、学生も学んだと感じていたこと、学生は医学・看護以外の教員から、看護に役立つことを学べていたことを明らかにした。
5. 小児看護学実習における看 護の学びの実態-本学第一期学 生の実習後のレポート分析か ら- (査読付き)	共著	2019年3月	松蔭大学看護学部紀要	松蔭大学看護学部第1期生の小児看護学関連科目の履修を終えた現在、学生から提出されたレポートから、小児看護学教育の目的・目標は達成されているかを検討することで、小児看護学教育におけるモデルコア・カリキュラム構築の一助とした。
(学会発表、講演など) 1. 医療処置を受ける幼児の対 処行動を高める感性的言語の 研究 (学会発表)	共同	2013年8月	第8回 ICN INP	医療現場における幼児への説明を容易にするため、幼児が理解できる感性的言語の説明モデルの開発を目的とし、どのような言葉で小児に関わっているか、小児医療に携わっている医師、看護師を対象に調査した。

<p>2. 臨地実習における看護診断過程の指導に対する困難感 (ポスター発表)</p> <p>3. 国内の小児病棟におけるプレパレーションに関する研究の動向 (ポスター発表)</p>	<p>共同</p> <p>共同</p>	<p>2015年7月</p> <p>2025年9月</p>	<p>第21回日本看護診断学会学術大会</p> <p>第56回日本看護学会学術集会</p>	<p>学</p> <p>学</p> <p>実習施設臨地実習指導者、専任教員が協働した学習会「ゴードンの機能的健康パターンを使用した看護過程事例演習」を企画し、学習会終了後の調査から看護診断過程の指導における困難感について明らかにした。</p> <p>国内の小児病棟におけるプレパレーションに関する研究の動向および課題を明らかにし、考察した。</p>
<p>(その他)</p>				